

【規格名（和名）】

個別医薬品コード（YJ コード）リスト

【規格名案（英名）】

List of YJ Code, The Codes for Individual Prescription Drugs in Japan.

【規格の目的（ユースケースを含む）】

医療機関では、医薬品マスターへの新規採用医薬品の登録にローカルコードを用いることはよく知られています。医療（医薬品）データを安全・有効・適正に利活用するためには、国内で標準化された医薬品コードを使用することが必須と考えられ、そのためには医薬品マスター登録時にローカルコードとともに標準化されたコードが含まれていることが必要です。

個別医薬品コード（YJ コード）は、薬価基準における統一名収載品に対しても個々の医薬品ごとにコードを付しており、医薬品個々の識別が可能です。このような特性から医療機関のシステムではローカルコードと YJ コードが併せて登録されることが多く、臨床研究等の複数施設にわたるリアルワールドデータの活用において、また医療 DX において、標準となる医薬品識別コードとして位置づける必要があると考えます。

【規格の適応領域】

日本標準商品分類を考慮した YJ コードは、薬価基準収載医薬品コードやそれに基づく一般名処方コードと親和性が高く、近年では電子処方箋管理サービスにも利用されています。コード普及体制を維持し、医薬品識別の標準コードとして安定して活用することで、処方・調剤だけでなく学術領域での活用も期待されます。

【関連他標準との関係】

厚生労働省標準規格である標準医薬品マスター（通称 HOT 番号）は、

医療機関で頻繁に使用されると想定される複数のコード体系を対応づけたテーブルの管理を行うための基準番号（HOT 番号）（13 桁）を設定したもので、個別医薬品の識別コードである YJ コードとは、本質的に異なります。

【規格の入手方法】

医薬品情報標準化推進協議会（CAPS）ウェブサイトよりダウンロード可能です。

<http://www.capstandard.jp/>

【メンテナンス状況】

医療データ活用基盤整備機構（IDIAL）がバージョン管理を含めメンテナンスを行い、データについては株式会社医薬情報研究所がメンテナンスを行っています。

【現在の改版状況】

2024 年 1 月リリース、
1/1 現在として最新のリストです。